



まずは、単元のねらいと評価規準を設定しましょう

ねらい 夏休み中に体験したことが相手に伝わるように、行った場所やその場所で楽しんだことなどについて、話すことができる。

評価規準(「話すこと[発表]」の評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識> 前置詞や動名詞、動詞の過去形を用いた文の意味・用法を理解している。</p> <p><技能> 前置詞や動名詞、動詞の過去形を用いて、自分が過去にしたことなどについて表現する技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらうために、夏休み中に行った場所や、その場所で楽しんだことなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを整理して話している。</p>	<p>自分のことをよく知ってもらうために、夏休み中に行った場所や、その場所で楽しんだことなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを整理して話そうとしている。</p>

つぎに、ゴールを見据えて単元を構想しましょう

単元の指導と評価の計画

(○…記録に残す評価 空欄…指導に生かす評価)

時間	主な学習活動など	知	思	態
1	単元のゴールとなる言語活動「夏休みの思い出を紹介しよう」 単元のゴールとなる言語活動を知り、発表に対する課題意識をもつ。			
2	第1時の授業で考えた文章の一部を、前置詞を用いてさらに詳しく表現する。			
3	前置詞を用いて、ものの場所や人の位置を正しく伝える。			
4	自分の好きなことや第1時の授業で考えた文章の一部について、動名詞を用いてさらに詳しく表現する。			
5	動名詞を用いて好きなことや楽しんでいること、得意なことを伝える。			
6	一般動詞の過去形について理解する。			
7	教科書の会話文の内容を理解する。			
8	夏休み中に体験したことが相手に伝わるように、行った場所やその場所で楽しんだことについて、話す内容を整理し、発表する。 次時に向けて、発表の様子をタブレットで録画する。		○	○
9	前時の発表動画を視聴し、自分の発表やこれまでの学習を振り返る。	○		

単元の見通し

誰に、何を伝えるのかという目的のある言語活動を単元のゴールとして設定します。そして生徒が、毎時間の授業が段階的にゴールにつながっているという意識をもてるように単元を構想します。そうすることで、毎時間の学習内容が言語活動と関連付けられ、英語表現が豊かになります。ゴールに向かう過程で、前置詞や動名詞、動詞の過去形を用いて、自分が過去にしたことなどについて表現する技能が向上し、発表内容が深まることを期待できます。



ICTの活用

発表内容を再構築する際、タブレットの翻訳アプリを用いて、即座に発音や英語表現を改善できるようにします。また、発表動画をタブレットで録画し、自分の動画を視聴することで、相手が理解しやすい発表になっているかどうかを客観的に捉えることができるので、相手意識の向上につながることを期待できます。録画を複数回行うことで、話す速さや強調したい点が改善され、パフォーマンスの向上につながると考えます。

授業の一例を見てみましょう（8/9時）

本時のねらい 夏休み中に体験したことが相手に伝わるように、行った場所やその場所で楽しんだことについて、話す内容を整理し、友達に話すことができる。

本時は、夏休み中に体験したことについて発表する時間です。前時までにタブレットなどを活用して構成した内容を、3人グループで発表します。発表の様子をタブレットで録画し視聴することで、自分の発表を客観的に捉えます。録画を繰り返し、よりよい発表に向けて再構築していきます。

学 習 活 動

- ① スモールトークをする。
 - ・曜日、日付、天気を伝え合う。
 - ・昨日したことについて、ペアで1分間話す。
- ② 本時の目標をクラスで考える。

発表内容を整理し、聞き手を意識した発表をしよう。
- ③ 発表の準備をする。
 - ・前時までに作成した夏休み中の思い出についての紹介文と発表資料を再確認する。
 - ・翻訳アプリで発音を確認する。
- ④ 発表を録画し改善する。
 - ・タブレットの画像を見せながら発表し、お互いに助言し合う。
 - ・発表を録画し、発表内容や発音を振り返る。
 - ・改善点を話し合い、難しい英語表現を見直して易しい表現に変更したり、英語を付け加えたりして、よりよい発表になるよう検討する。
 - ・改善点を生かした発表を録画し合う。
- ⑤ 本時の振り返りをする。
 - ・タブレットで振り返りを行い、動画を添付して提出する。



本時の見どころはココ！

- ・翻訳アプリで、自分の発音した英語が正しく認識できるか確認します。

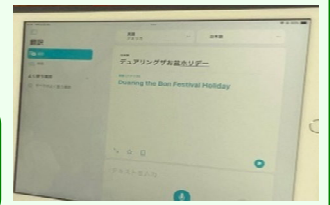
あれ？自分の英語が正しく認識されない。この発音だと伝わらないのか…。



- ・翻訳アプリに読み方が不明確な英語を入力することで、発音を確認します。



なるほど！正しい発音が分かったから、アクセントの位置に注意して練習しよう。



- ・発表を録画し客観的に見ること、相手意識が向上します。

友達のアドバイスを基に、相手を見て話すことを意識したよ。



- ・自分の発表を振り返り、お互いに改善点を話し合いながら、よりよい発表を目指します。

“instrument”の発音が難しかったから、何度も練習したよ。伝わるといいな。



生徒の振り返り

今までに学習した表現を使って、夏休み中に体験したことを友達に伝えることができた。自分が発音した英語を翻訳アプリで正しく読み取ってもらえたので、自信が付いた。友達と相談したから改善するところが分かって発表に生かせた。

最後に、単元を振り返り、生徒にどんな力が身に付いたか確認しましょう



単元のはじめに、教師がゴールとなる活動を示すことで、生徒が見通しをもって毎時間の活動に取り組む様子が見られました。翻訳アプリを活用することで、正しい発音を確認することができ、生徒は表現することに自信が付きました。友達から助言をもらったり、録画した自分の発表を振り返ったりしながら、よりよい発表に向けて発表内容を再構築する姿が見られました。既習表現を想起しながら本当に伝えたいことを英語で伝える力が身に付きました。